

平成30年度 道川分教室 授業研究会



第1回授業研究会を9月18日(火)、第2回授業研究会を11月20日(火)に開催しました。午前は提示授業を行い、午後は研究協議会を行いました。第1回は秋田大学教育文化学部准教授高田屋陽子氏による講演助言、第2回は特別支援課指導主事菊地真理氏による指導助言をいただきました。

研究協議では熱心な話し合いが行われ、たくさんの意見交換ができ、有意義な研究会となりました。御参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

第1回提示授業「高等部 第1学年 自立活動(個別学習)」

感じてみよう 動かしてみようⅡ～ポストカード はい どうぞ～

学習の始まりを感じ、気持ちを整えることができるように、学習の流れを一定にしたり、合い言葉を教師と一緒に言ったりしました。授業展開と教材・教具の工夫により、生徒の期待感と意欲の高まりが見られました。得意な感覚を生かした活動を行い、感じた気持ちを表情や身体の動きで表現していました。



第2回提示授業「小学部 第6学年 自立活動(個別学習)」

動かしてみよう 聞いてみよう～絵本を読もう～

そのときの児童の状態に合わせて体操や活動内容を変え、安心できる環境作りを行いました。パソコンゲームや絵本で取り組みたい内容をスイッチを押して選択し、自分の気持ちを伝えようとする場面を設定しました。パソコンや絵本の提示の仕方を工夫し、児童のやりたい気持ちを引き出していました。



研究協議会

協議題「教育的ニーズに応じた目標を達成するための手立てと評価について」

前半は、2つのグループに分かれてワークショップ型の協議を行い、活発な意見交換が行われました。後半は、グループ協議の発表を受けて全体報告を行いました。

【協議会より(一部抜粋)】

<第1回提示授業について>

- 流れ図は自立活動の資料として基本になる。授業の有効な組み立てにつながっていく。
- 様々な感覚を活用し、表現方法を高めるための教材。

【協議会より(一部抜粋)】

<第2回提示授業について>

- 担任にしか分からない児童の意思の表出を汎用性のある方法にしていく手立て。
- 意思の表出を支える教材・教具の工夫・活用。



講演・助言

講師の高田屋准教授より、「重度・重複障害児をとりまく現状と個の教育的ニーズに応じた指導」と題して講演をいただきました。医療的ケアが必要な児童生徒にとっての自立とは何かを考える機会となりました。

また、菊地真理指導主事より、健康・安全に気を付け、卒業後の目指す姿、豊かな生活に向けて何が大切なのかを考え、今後もチームで取り組んでいってほしいという話がありました。そのために自立活動の流れ図を活用するとともに、より客観的な評価をすることが大切という助言をいただき、今後の取り組みへの大きな指標となりました。

